

# 教育文化功労 さどはら ひでき 佐土原 秀樹 氏

10年以上に亘り、  
国立市バレーボール連盟  
及び国立市体育協会で活動して  
いる方。ファミリーフェスティバルや  
くにたちウォーキングのボランティア  
役員として市民スポーツの普及  
に努めるなど、市のスポーツ  
全体の振興・発展に貢献  
している。



「バレーボール連盟に加入されたきっかけとは何ですか。」

そもそもバレーボールに興味を持ったきっかけは、姉の影響で中学校のバレーボール部に入ったことに始まります。当時は「アタックNo.1」や「サインはV」といったバレーボールアニメが流行し、ちょうど女子バレーの全盛期を迎えた頃でした。

その後高校もバレーボール部へ入部。この頃はミノンペン五輪で男子バレーボールが金メダルを獲得したことで男子側の人氣が急上昇し、部員の人数も多かったです。今思えば、バレーボールの盛期に青年期を過ごしていたようです。

その後社会人になってからは競技から離れていたのですが、当時私の子どもが通っていた小学校の父兄の方から、PTAバレーボール大会に参加しないかと誘いをいただき、数十年ぶりにバレーボールの舞台に立つことになりました。この機会に知り合った現バレーボール連盟会長の西村さん他と社会人チーム「くにたちオービーズ」を立ち上げ、試合などに出場するうち、大会の運営等の手伝いも行うようになり、連盟に参加したという運びです。

「連盟や体育協会ではどのような活動をしましたか。」

連盟では、大会の運営が活動の中心です。男女ともに市民大会は年に2回。女子は市内で5チームあるのに対し、男子はチーム数が少なく、近隣市にも声を掛けて参加チームを集めたりしています。

他にも、家庭婦人大会（結婚している女性を対象とした大会）や男女混合の大会も企画しています。その他、審判講習会を開催しています。

体育協会としては、ファミリーフェスティバルやくにたちウォーキングのお手伝いなどをしております。

「バレーボールという競技の魅力を教えてください。」

バレーボールは、他の球技と比較して、基礎動作が難しいスポーツです。単にパスを出すにしても、オーバー（両手指を用いて頭上でボールを弾く方法）とアンダー（両手を組み手首付近でボールを弾く方法）があります。そうした基礎動作が上手にできるようになると、ぐんと面白くなります。

スパイクで相手チームへ攻め入る「アタッカー」というポジションは花形としてイメージされやすいかもしれませんが、他のポジションにもそれぞれ面白さがあります。個人的には、相手チームのアタッカーを空中でブロックする「セッター」とい

うポジションが一番好きです。ネット越しに相手のスパイクをブロックできたときの気持ちよさは、スパイクがきれいに決まった瞬間以上に爽快だと思っています。

「地域におけるバレーボール競技の今後についてどのようにお考えですか。」

今の国立市の中学・高校には、男子バレーボール部が無いと聞いています（女子バレーボールは存在する）。学生の興味趣向が多様化していることが理由にあると思いますが、学生がバレーボールという競技に触れる機会が無くなってきたのは間違いありません。

もし競技になじみがない、競技の敷居が高いということであれば、ソフトバレーボール（通常のものより柔らかいボールを使用したバレーボール）で簡易的に行う等でもよいので、触れ合う機会を少しでも増やしたいと思っています。

社会人バレーボールについては、設立当初は試合に出ることすら難しいほど人のいなかっただけに「くにたちオービーズ」が近年はチーム内で練習試合ができるくらい人が増えてきました。長年あきらめずに活動し続けてきたひとつの成果かもしれないので、今後も継続して規模を少しずつ大きくしていきたいです。